

教育プロジェクトマネジメント
教育を変える国際標準マネジメント手法

目 次

- 1** 本書を書くに
至ったいきさつ（まえがきに代えて） 5
- 2** 学校教育はプロジェクトそのもの 8
- 3** 教育に関わるプロジェクトチームの構成と特徴 11
- 4** 限られた修学期間で
一定以上の質（習熟度）に達成するために 16
- 5** 医療現場の
チーム医療と教育プロジェクトの比較と工夫 23
 - 5.1** 「教育はプロジェクト」という意識の変革が重要 23
 - 5.2** プロジェクトの目的の明確化 25
 - 5.3** チーム医療や医学教育には、プロジェクトの開始時点から明確な「目的」がある 26
 - 5.4** 入院治療におけるチーム医療と学校教育におけるチームの構成においては、プロジェクトマネジャーの担当者が異なる 27
 - 5.5** 医療現場では治療フェーズによってステークホルダーが変化するが、教育プロジェクトではステークホルダーはさほど変化しない 28
 - 5.6** 患者情報が共有できるような仕組みを、学校の教育現場にも採り入れる 29
 - 5.7** 学生カルテに活かすのは電子カルテで蓄積した教訓 30
 - 5.8** チーム医療にはプロジェクトマネジャー（主治医）を補完する仕組みと人材を

- 5.9 WBS（クリニカルパス）の存在 32
- 5.10 医学教育では極めて多くのことを、限られた年限で修得するための仕組みが整備されている 33
- 5.11 測定できないものは改善できない 34
- 5.12 チーム医療における成功要因、プロジェクトマネジメントの工夫 35

6 国際標準の プロジェクトマネジメント手法に習う 41

- 6.1 国際標準のプロジェクトマネジメント手法とは 41
- 6.2 プロジェクトのマネジメントプロセスを知る 45
- 6.3 プロジェクトマネジメントを教育現場に導入するポイントは 55

7 教育現場で プロジェクトマネジメントを使ってみる 57

- 7.1 プロローグープロジェクトの始まり 57
- 7.2 プロジェクトを立上げる 60
- 7.3 プロジェクトを計画する 64
- 7.4 プロジェクトを実行する 78
- 7.5 プロジェクトを監視・コントロールする 80
- 7.6 プロジェクトを終結する 83
- 7.7 エピローグー プロジェクトマネジメント手法で未来を継ぐ 84

8 これからの教育現場 85

- 索引 89